

—学童クラブ版—

第三者評価結果報告書

江東きっずクラブ亀戸児童館

【5段階評価の基準について】

- 5：全般的に極めて優れた状態にある
(非常に高度な状態が実現されている場合を想定)
- 4：優れた状態にある
(全般的に「適切な状態」以上であることに加え、一部に極めて優れたレベルのものがある)
- 3：適切な状態にある
- 2：一部不十分な状態にある
(一部に重要な改善点があり、「適切な状態」とまでは言えない)
- 1：全般的に極めて不十分な状態にある

■評価項目及び評点について

評価手法全般は、東京都福祉サービス第三者評価手法（平成16年度版）に準拠し、平成30年10月に改正された児童館ガイドラインを加味して評価項目を作成した。平成17年度児童館ガイドラインの基礎を作成した一般社団法人児童健全育成推進財団『児童館等の第三者評価についての調査研究』にて多くの児童館の評価を経験し、項目検討に参加したノウハウを生かし評価を実施した。評点は、客観性を担保するため、従来からの考課項目を用いて微調整を行うことで、当社の過去の同類型の評価実績をもとに定量データと定性データを加味して評価を行った。

少子高齢化が問題視される中、児童館（学童クラブ含む）の指定管理者制度が広まり、児童健全育成が民間企業に委ねられつつある。今後、子ども達の健全育成を支える中核としての施設に児童館が成長することを願うとともに、サービスの質の確保のため、第三者評価制度が普及することを期待したい。

利用者調査	2020（令和2）年 9月28日～12月18日
自己評価（職員及び会議）	2020（令和2）年 9月28日～12月18日
訪問調査	2021（令和3）年 1月19日
評価報告日	2021（令和3）年 2月24日

評価機関	株式会社川原経営総合センター
東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 9階 経営コンサルティング部門	TEL 03（5422）7147
評価者 田中 律子、金沢 幸藏	

この事業所の特に良いと思う点 特に改善する必要があると思う点

特に良いと思う点	特に改善する必要があると思う点
<p>1. 帰宅時間や安全管理などの確実さに保護者との信頼関係が構築されています。</p> <p>日々の帰宅時間は、連絡帳で確認し、万一、子どもの認識と内容が異なる場合は、保護者に確認して誤りが無いよう行っています。小学校の授業終了後から登室が遅い場合も、小学校と保護者に確認のうえ対応しています。今回のアンケートにおいても連絡体制や苦情の言いやすさなどに対して高い評価を得ており、確実なやり取りから信頼関係が構築されていることが伺えます。</p>	<p>更なる関係機関との連携方法の工夫が期待されます。</p> <p>コロナ禍において、併設児童館の地域連絡会が対面でなく、書面開催になったり、従来行っていた行事が中止となるなど、関係機関との連携が限られた状態になっています。新型コロナ感染症発生から既に1年経過し、長期化する中、地域の感染症の状況により段階的に関わる工夫をしたり、双方の連携の取り方の希望を聞くなどにより関係機関との関係性が継続できるよう、工夫することが期待されます。</p>
<p>2. 小規模のきっずクラブの良さを生かし子ども達の主体性を養っています。</p> <p>職員間で子ども達の様子を情報交換しながら、小規模のきっずクラブならではの細やかな支援を行っています。他の子ども達の前で役割を担う場面を設けたり、工作の作り方についても子どもの様子により選べるように対応したりすることで、少しつづ子ども達が自分の行動に自信が持てるよう変わってきています。</p>	<p>コロナ禍、保護者との連携方法の工夫が期待されます。</p> <p>従来、保護者とクッキングを行ったり、遠足に保護者が同行するなど、多様な形で保護者が関わる機会を設けていました。今年度は、保護者会が中止となり、日常的に遊びに来てもらえるよう声掛けはしているものの、保護者との接点が少ない傾向にあります。また、保護者同士が関わる機会も得られない状況にあります。保護者の個別な希望を勘案しながら、少人数でのグループ単位の面談やテレビ電話など三密を避ける方法で、顔の見える関係作りを工夫することが期待されます。</p>
<p>3. 児童館ときっずクラブの職員が相互協力のもと運営しています。</p> <p>当児童館の中には、児童館ときっずクラブの2つの機能を有しています。来館の際の窓口となる受付業務は、担当業務に関わらず対応できることとしています。日々の行事の予約や実施予定などをミーティングで共有し、相互連携を図っています。行事の際にも担当決めにより連携を図り、職員からもチームワークの良さがあげられています。その他、児童館行事にきっずクラブの子ども達が参加することで活動の幅を広げ、児童館併設の良さを生かしています。</p>	<p>子ども達の活動や体験の場を広げる工夫が期待されます。</p> <p>コロナ禍により、今年度は、併設児童館を含め、様々な行事が中止を余儀なくされています。きっずクラブでは日常的な工作などはあるものの、子ども達の活動が制限されています。従来の企画に拘らず、感染リスクに配慮しつつも、新たな視点で子ども達の活動や体験を広げる場を工夫することが期待されます。</p>

児童館(学童クラブ) 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価結果
1. 理念・基本方針	(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	3	<p>・明文化された事業基本理念や事業プロックの目標を身近なものとする取り組みを行っています。 職員の理念に対する理解を促すために、各種会議の際に確認するだけではなく、日頃の支援や職員指導を行う際にも理念と照らし合わせて指導を行うなど、各職員が理念や基本方針を身近なものとする仕組みづくりが行われています。</p> <p>・来館者への事業基本理念を周知する取り組みを行っています。 法人のホームページへの掲載だけでなく、入口受付部分にわかりやすく掲示するなど、誰の目にも入るような工夫をしています。</p> <p>・事業理解を深めるための周知方法の改善に取り組んでいます。 お便りの誌面作りは、利用者への伝え方や目を引くデザインなどを職員間で検討し、より理解を深める方法を模索し改善しています。乳幼児向けは、柔らかい色合いでほっとさせる印象に、小学生向けには、ふりがなを振ったり、企画紹介だけでなく、活動の様子を掲載したり、中高生向けは遊びを紹介したり、クイズを載せるなど、多様な層を持つ児童館の活動に興味を持つもらえるよう工夫しています。きつずクラブでは、保護者に対しておやつや活動状況を伝えるお便りを発行しています。</p>
2. 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	3	<p>・地域の環境変化に合わせた、適切な対応を行っています。 地域の幼稚園生や小学生の居場所の選択肢が増える中、事業所内だけではなく関係する機関への情報提供や連携を行うことで、利用者数の増加に取り組んでいます。</p> <p>・法人内で積極的に連携し、情報収集に努めています。 亀戸児童館内部だけではなく、法人内の児童館同士やエリア内の事業所などで連絡会を定期的に実施し、積極的に情報収集を行い経営環境の変化を的確にとらえています。</p> <p>・利用状況の分析を行い、利用者の状況に合わせた対応を行っています。 各月の利用者総数や男女別の人數などを分析し、年代や性別によって参加しやすいイベントを企画し、幅広い利用者状況に合わせ対応しています。お便りの工夫やSNSを利用した広報活動などサービスを改善するだけではなく、来館のきっかけづくりにも工夫をしています。</p>

児童館(学童クラブ) 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価結果
3. 事業計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 (2) 事業計画が適切に策定されている。	3	<ul style="list-style-type: none"> 法人として明確な中長期的なビジョンを掲げています。 小学生の減少傾向などの課題をとらえ、法人内連携にとどまらず、地域との継続した関係構築を促進することで中長期的な事業継続を安定させるビジョンを掲げています。 法人のビジョンだけではなく、事業の特性や地域に合わせた中長期計画を策定しています。 法人が掲げている「地域連携」による事業展開というテーマをもとに、区内の子ども家庭支援センターや保育園との連携強化や、地域の関係機関と継続した関係構築などを計画し利用者にとって切れ目のないサービス提供ができるよう計画を策定しています。また、法人合同での自主事業の取組みとして支援が必要な家庭にマスクやベビーベッドなどを提供したり、高齢者向けの食事会などボランティア活動を行っています。 実効性の高い計画を策定しています。 各部門の担当者の意見をもとに事業計画を作成することで実効性の高い計画を策定しています。また、毎月の職員会議で事業計画の振り返りを行い達成状況を確認し、改善活動につなげています。しかし、今年度は、新型コロナ感染症の影響により、各種行事の中止などもあり、利用者数が減少しています。
4. 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	3	<ul style="list-style-type: none"> 公的な資料や外部の発行物を有効活用し質の向上に努めています。 児童館ガイドラインや虐待防止マニュアルなどの公的な資料だけではなく、外部の発行物などを積極的に取り入れ、職員の手引きに記載し職員に児童館などの役割理解を促進し質の向上を行っています。 タイムリーに改善活動が行える仕組みづくりが行われています。 毎月の職員会議で課題への対応状況などの振り返りを行い、担当者だけではなく事業所全体で改善が行える仕組みを作っています。 企画の目的を再確認し、振り返る習慣が期待されます。 職員の手引きに、館内の部屋の目的や主要企画の目的などが記載されています。今後、日常活動や各事業の活動などを振り返る際、利用者に何を体験して欲しいのか、企画時点の目的に立ち返った、進め方や職員の関わり方、利用者の状態などを振り返ることが期待されます。

児童館(学童クラブ) 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価結果
5. 管理者の責任とリーダーシップ	<p>(1) 管理者の責任が明確にされている。</p> <p>(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。</p>	3	<p>・館長を主軸とした組織運営が行われています。 約15年間、亀戸児童館で働いている館長を主軸とした組織体系であるものの、館長からの指示を待つのではなく、各部門の担当者が責任をもって必要なことを考え館長へ提案できる体制構築が行われています。</p> <p>・なお一層、多様な可能性を考慮した方針決定が期待されます。 非常勤職員も含めた会議で、利用者状況や活動内容などを振り返っています。人事異動など在籍の浅い職員が多い中、職員から多様な意見があげられ工夫を行っています。制約のあるコロナ禍において、やや内向きな傾向もあります。今後、今以上に職員一人ひとりの発案をいかしつつ、多様な可能性を考え、実施内容を決定していくことが期待されます。</p> <p>・職員間の細やかな情報共有を行うことで柔軟な対応を心がけています。 毎日の情報共有の他に月1回職員会議を実施し、情報共有を細やかに行っています。 また、各部門での役割分担を明確にし、部門間での情報共有を行っており、協力体制を築き、柔軟に対応しています。</p>
6. 福祉人材の確保・育成	<p>(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。</p> <p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p> <p>(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p> <p>(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>	3	<p>・法人として採用計画を整備し、計画的な育成を行っています。 採用計画にもとづいて、人材確保を行い、かつ体系的な研修を行っています。採用時研修や勤続1年目から3年目までのブロックごとの研修、その他、階層別の研修などを体系的に計画し、専門性の強化に取り組んでいます。また、実習生を多く受け入れ、将来の専門職の育成につなげています。</p> <p>・積極的に外部研修に参加し、職員の質の向上に努めています。 法人内の研修計画のほかに、人事考課制度に基づき職員一人ひとりの業務に対する行動評価や目標達成状況を把握しています。その他、外部の専門研修を学びの機会として、参加実績を研修履歴表に整理し、職員の質の向上を行っています。定期的な職員面談により、成長の機会や職員の定着を実践しています。</p> <p>・全職員が専門性に対して統一した視点が持てるよう更なる強化が期待されます。 明るくフレンドリーな対応、積極的な利用者との関わりなど全職員で統一した姿勢が確保されています。今後は、子ども達の心境理解や育てる姿勢など全職員が専門的な視点で考えられるよう更なる育成が期待されます。</p>

児童館(学童クラブ) 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価結果
7. 運営の透明性の確保	(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・透明性を確保するために、経営に関する情報公開を行っています。 法人のホームページ上に、法人の事業基本理念から事業報告、財務状況など経営に関わる情報公開を適切に行い、透明性を確保しています。コスト管理に関しては、節電や節水や備品の管理などにより節約を行うとともに、繰り越し分の費用についても根拠が明確であり適切な財務管理を行っています。また、法人内で定期的に外部監査を実施し、法人事務局内で適切に会計処理を行っています。 ・事業所独自のホームページを用意し、積極的に情報公開を行っています。 法人のホームページとは別に亀戸児童館独自のホームページを作成しており、児童館やきつずクラブで行っている活動内容や年間プログラム、月間の定例プログラムとあわせて、毎月のお便りなどを掲載し、積極的に情報公開を行っています。 ・リアルタイムなイベント情報も積極的に公開しています。 ホームページでの情報公開だけではなく、ツイッターなどのSNSを活用して、写真や動画付きで活動内容を分かりやすく公開しています。また、「児童館クイズ」をツイッターで紹介し児童館に興味関心を向けてもらえる工夫を行っています。
8. 地域との交流、地域貢献	(1) 地域との関係が適切に確保されている。 (2) 関係機関との連携が確保されている。 (3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の機会を積極的に取り入れています。 地域懇談会にて事業に関する情報公開をするだけではなく、地域の食支援活動に賛同しクイズを付けたおしおりを配布するなど、職員だけではなく子ども達が地域と関わる機会を積極的に設けています。 ・地域の高齢者施設などと継続的に連携を図っています。 新型コロナウイルス感染症の関係で、外出する機会が少なくなっているものの、近隣にある高齢者のデイサービスなどにきつずクラブの子ども達が作成した切り絵などを送り、関係構築を継続しています。 ・地域福祉向上のための取組みを積極的に実施しています。 一般来館の利用者の状況を勘案しつつ、保育園の活動の場所としても児童館を提供しています。その他、乳幼児の保護者向けに地域の公園巡りができるよう企画を行い、子育て世代の地域活動が広げられるよう情報提供しています。また、子どもの新たな居場所を創設することを目的とした登録制の「亀戸のこどもの居場所創設プロジェクト」(愛称:かめっこほーむず)を組織し、積極的に地域に対する取り組みを行っています。

児童館(学童クラブ) 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価結果
9. 利用者本位の福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> (1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。 (2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。 (3) 利用者満足の向上に努めている。 (4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。 (5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。 	4	<p>・子どもの意見を尊重した事業運営が行われています。 新たな玩具購入などの際に子ども会議を開催し、子ども達からの意見を聞く機会を設けています。また、子ども同士の遊びにルールが必要な場合は、職員だけで決めるのではなく、子ども達を中心にルールを決める機会を設けるなど工夫しています。</p> <p>・フレンドリーな対応で要望苦情があげやすい雰囲気が作られています。 来館者には職員誰もがフレンドリーな対応で接しており、アットホームで安心できる環境を作っています。意見箱の設置や定期的なアンケートの実施などにより利用者ニーズを把握するとともに、苦情窓口をホームページなどで公開し、対応しています。今回のアンケートでも意見が挙げやすいことに対して利用者から高い評価を得ています。</p> <p>・安心安全なサービス提供のために定期的な訓練を実施しています。 消防訓練・災害対策訓練実施計画書を作成し、定期的に避難訓練の実施を行っています。訓練は防犯対策も含めて行っています。近隣の小学校へ防災無線の体験に出向くなど地域の関係機関との連携を行っています。緊急対応は、職員の手引きに記載するとともに、すぐ対応できるよう事務所内に連絡先を大きく掲示しています。</p>
10 福祉サービスの質の確保	<ul style="list-style-type: none"> (1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。 (2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。 (3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。 	3	<p>・職員の手引きを活用してサービスの標準化を図っています。 職員には「亀戸児童館 職員の手引き」を配布しており法人の基本理念や事業目標、亀戸児童館の主な事業、職務分担表、職員の勤務など細かい点まで文書化しており、これをもとに標準的なサービス提供を行っています。</p> <p>・日常の様子など細かく記録を行っています。 利用者の状況などは、細かくミーティングノートに記録しており全職員が勤務開始前に確認しています。また、毎日のミーティングなどの際に情報共有しています。今後、個別に配慮が必要な利用者の場合は、個別のノートを作成するなど経緯が把握できるよう情報の集約をすると、継続的な支援の目線の強化につながります。</p> <p>・個人情報の取扱いに関して管理が徹底しています。 法人として個人情報保護規程を作成しており、その内容にもどづき点検シートや遅番チェックシートを作成し、日々管理を徹底しています。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(1) サービスの開始・継続	<ul style="list-style-type: none"> ① 将来の利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している ② サービスの開始にあたり、利用者に利用方法をわかりやすく説明している ③ 利用者情報の適切な把握と適正な情報管理を行っている ④ サービス開始時の保護者や子どもへの精神的不安を軽減している 	3	<p>・面談などを通じて個別対応が必要な部分は、確実に対応できるよう配慮しています。 利用申込の後、説明会を開催し、個別にアレルギーなど気になる点がある場合、保護者と面談を行い、ノートに記入し情報共有しています。習い事などの帰宅時間についても保護者と子ども達の認識を確認しながら確実に対応しています。万一、授業終了後45分を超えて登室しない場合は、学校や保護者に連絡し確認するなど安全に配慮して対応しています。</p> <p>・入会説明会では、入会のしおりにて安全対策など充分に説明しています。 入会説明会では、入会のしおりを配布して、子ども達の過ごし方や保護者との連絡方法の他、安全に関する点を特に説明しています。子ども達の登室と退出時に保護者にメールが届く仕組みを用いており、利用者のアンケートでは、緊急時の連絡体制について全員が理解していると回答しています。</p> <p>・保育園との交流や新学期の児童館巡りなど当きっずクラブに慣れるよう工夫しています。 地域の保育園が児童館に遊びに来ることがあり、入会前から児童館での利用できっずクラブを知る機会を設けています。また、年度当初は、児童館の館内巡りをし、活動場所の理解を促すとともに、春休みが終わる際に小学校までのルートを確認するなど、安心して登室できるよう配慮しています。</p>
(2) 遊び及び生活の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている ② 利用者が自発的かつ創造的に活動できるよう室内・外の遊び場が確保されている ③ 子どもの持ち物が適切に保管できるようになっている ④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている ⑤ 学童クラブ以外の子どもと遊べる環境を設けている 	3	<p>・少人数のきっずクラブの良さを生かし、子ども達と相談してルールを決定しています。 当きっずクラブでは比較的ルールは少なく、遊び方などで支障が生じた場合に、子ども達から意見を募りルールを決定しています。人気のある玩具の遊び方について、帰りの会などで話し合いをしてルールを決定し、子ども達がルールの中で遊べるようにしています。</p> <p>・公園遊びなどを通してきっずクラブ以外の子ども達と交流機会を設けていました。 コロナ禍は、公園遊びを制限しており、以前のように定期的な外遊びができない状況となっています。児童館の利用も減少傾向にあり、きっずクラブ以外の子ども達との交流の機会が少なくなっています。今後、学校の対応なども考慮しつつ、きっずクラブ以外の子ども達が関わる場を設けることが期待されます。</p> <p>・子ども達が自分自身の持ち物が管理できるよう配慮しています。 感染リスクを考慮し給水機が使えないことから子ども達は水筒を持参して、登室しています。荷物の量が増えるなど、ロッカーだけでは入りきれない場合が生じています。棚を工夫したり、他のスペースの確保をし、子ども達が自分の荷物を保管できるよう状況に応じて工夫しています。職員の声掛けにより、忘れ物が減り、子ども達が自分自身で持ち物の管理ができるよう努めています。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(3) 遊びや体験を通した育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・主体性を育てることを意識して企画されている ② 遊びや活動の中で、子ども同士の人間関係に配慮し、円滑な人間関係を築く力を身につけるよう援助している ③ 行事や活動を進めるうえで、子どもの意見を尊重して行っている ④ 障害の有無や国籍の違いを超えて、子どもが一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている 	3	<p>・1週間の行事予定を伝えることで、子ども自身が予定を考えられるよう工夫しています。</p> <p>学童クラブ単体の行事と合わせ併設児童館の行事など、子ども達は多様な行事に参加することができます。帰りの会では、1週間の行事予定を伝えています。習い事など利用する曜日が限られる場合など、子ども自身が自分の予定との関係で、見通しを持って参加する行事の予定が立てられるよう、工夫しています。</p> <p>・子ども達が合同で作った壁画を敬老の日に近隣施設の高齢者にプレゼントしています。</p> <p>日常の活動の一環として子ども達がちぎり絵で壁画を作成しています。敬老の日には、子ども達が書いたメッセージ付きのデコパージュコースターや壁画を近隣施設2か所の高齢者にプレゼントしています。また、毎月の誕生会は、自己紹介で始まり、誕生日の子どもにまつわるクイズを出し、保護者のメッセージ付きのカードを渡し、レクレーションを行っています。</p> <p>・職員同士子ども達の様子を共有しつつ細やかな対応を行っています。</p> <p>小規模のきっずクラブの良さを生かして、一人ひとりの子ども達の様子を細やかに把握し、支援を行っています。子どもの状況によって、選択肢から選ぶ形式で職員が一緒に工作をし、工作コンテストを行うなど状況に応じて関わり方を工夫しています。帰りの会などの場面で他の子ども達の前で発表したりすることで、子ども達の主体性を引き出しています。</p>
(4) 日常生活の一環としての支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員が個々の子どもの状態や心理状態に考慮して適切に援助している ② 子どもの健康管理や情緒の安定に関して配慮している ③ おやつが適切に提供されている ④ 必要に応じ基本的生活習慣の確立に向けた指導を行っている 	3	<p>・手洗いうがいの徹底とともに感染対策に留意して対応しています。</p> <p>帰りの会で毎週感染対策について、子ども達に伝え周知徹底をしています。また、毎日、備品などの消毒をチェック表を用いて実施しています。三密を避けるために記しを付け、子ども達がわかりやすく工夫しています。その他、座席や子ども達が誰と遊んでいたかなどを把握し、万一、体調不良の子どもが出た場合、濃厚接触者の把握ができるよう配慮しています。</p> <p>・楽しみとなるようリクエストおやつを設けるとともに、アレルギーなど安全面に配慮して提供しています。</p> <p>おやつは食感や色合いなどを考慮したり、子ども達の要望により提供するリクエストおやつを設けるなど生活の楽しみとなるよう、工夫しています。アレルギーのある場合は、事前に面談で確認し、チェック表を作成し、購入時にダブルチェックにて該当の食材が入っていないものを選択しています。また、おやつを食べる際は、念のため座席を離し、皿の色を変えるなど誤りの無いよう留意しています。</p> <p>・毎日学習の時間を設け、子ども達の生活習慣の確立に配慮しています。</p> <p>子ども達は、登室後、荷物を片付け、うがい手荒いをしてからおやつの時間となります。その後、10分～15分は必ず学習の時間を設け、きっずクラブの子ども達が遊びだけでなく生活習慣を身に付ける場として取り組んでいます。学習の時間は、おしゃべりしない、困ったことは手上げをするなどのルールを設け、保護者からも学習時間の習慣がついたという意見が挙げられています。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(5) 保護者への支援・連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 学童クラブでの子どもや子ども達の様子を保護者に伝えている ② 出欠確認をはじめ、来館しない場合の対応について保護者と取り決めを行っている ③ 保護者が行事や活動へ参画する機会を設けている ④ 保護者同士が交流できる機会を設けている ⑤ 職員が小学生低学年期の育成要素を理解し、保護者から相談が受けられるような体制を整えている 	3	<p>・連絡帳のほか迎え時の会話やメールなどで、子ども達の様子を伝えています。 毎月、クラブだよりを発行し、誕生会などの子ども達の様子を伝えています。日常的には連絡帳を通じて、帰り時間や子どもの様子など保護者と情報共有を図っています。その他、18時以降の場合、保護者が迎えに来ることとなっており、迎えに来た際に直接話をし情報提供を図っています。連絡帳に記載のある帰りの時間が子ども達の理解と異なる場合は、確認の連絡を入れ行き違いが生じないよう対応しています。</p> <p>・保護者との一定の信頼関係が構築されています。 今回のアンケートでは、当きっずクラブに関して総合的に全員が満足していると回答しています。特に、緊急時の対応、プライバシーの保護、連絡体制や苦情の言いやすさなど高い評価を得ています。子ども達がリラックスして過ごせているという安心感が背景にあると想定されます。</p> <p>・コロナ禍においても保護者同士が顔合わせる機会など、工夫が期待されます。 前年度までは、保護者とともにクリッキングを行ったり、遠足に保護者の参加を促すなど、多様な形で保護者が関わる機会を設けていました。今年度は新型コロナ感染症の影響で、保護者会は文章を発行する形式となり、接点が少なくなっています。来年度は、保護者との接点を増やす予定であり、実現が期待されます。</p>
(6) 学校・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事を把握するとともに、学童クラブの予定を学校に伝えるなど相互情報交換が行われている ② 学校・地域・関係機関に対して学童クラブの役割や方針、活動内容などを伝えている ③ 学童クラブの運営に対して学校・地域・関係機関から協力を得ている 	3	<p>・年度当初、小学校や小学校併設のきっずクラブと子ども達の様子について情報交換を行っています。 当きっずクラブでは、土曜きっずクラブも行っており、当きっずクラブの子ども達だけでなく、平日は小学校併設のきっずクラブを利用している子ども達が、土曜日のみ利用している場合もあります。年度当初には、土曜きっずクラブの子ども達の様子などを含めて、小学校や小学校併設のきっずクラブと情報交換を行っています。</p> <p>・近隣保育園との連携により、子ども達の活動の幅を広げています。 例年は、近隣の保育園の園児達を当きっずクラブに招待しています。今年度は、子ども達が保育園児達に手作りおもちゃをプレゼントするなど、交流を深めています。また、保育園にポスター掲示を依頼するなど、関わりを深め将来きっずクラブを利用する際に安心できるよう努めています。その他、併設の児童館主催の地域連絡会では、近隣の関係機関にきっずクラブの活動を伝えています。</p> <p>・コロナ禍における連携方法の工夫が期待されます。 例年、小学校併設のきっずクラブと合同で水遊びやドッジボールなどをを行い、子ども達の交流を行っていました。今年度は、コロナ禍のため、合同行事は中止となり、各関係機関との関わりが狭くなっています。今後、継続した連携関係が保てるよう関わりの方法を工夫するとともに、運動など子ども達の多様な活動の工夫をすることが期待されます。</p>